

【本稿は同日リリースの英文のCredit Agricole Group Second quarter 2010の抄訳です】



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

2010年8月26日 パリ

2010年上半期及び第2四半期: 堅固な収益基盤

クレディ・アグリコル・グループ*

2010年上半期

純利益(グループ帰属分): 18.5億ユーロ、前年同期比69.4%増加

2010年第2四半期

純利益(グループ帰属分): 8億9,700万ユーロ、前年同期比35.3%増

ティア1レシオ: 10.1%

*クレディ・アグリコルS.A.及び地域銀行の100%を反映

クレディ・アグリコルS.A.

2010年上半期

純利益(グループ帰属分): 8億4,900万ユーロ、前年同期比2.1倍

ティア1レシオ: 9.7%; コア・ティア1レシオ: 9.1%

2010年第2四半期

銀行業務純利益: 前年同期比20%増、14.3%増 (同一条件及び一定為替レートを使用)

営業総利益: 前年同期比31.2%増、26.5%増 (同一条件及び一定為替レートを使用)

リスク関連費用: 前年同期比13.0%減

純利益(グループ帰属分): 3億7,900万ユーロ、前年同期比88.6%

2010年上半期及び第2四半期の業績を見直すために、2010年8月25日にジャンマリ・サンデルを議長とし、クレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

2010年第2四半期の純利益(グループ帰属分)は、3億7,900ユーロ(2010年上半期は8億4,900万ユーロ)となりました。第2四半期のクレディ・アグリコルS.A.の銀行業務純利益は54億6,900万ユーロ、営業総利益は20億6,400万ユーロと記録的な水準を達成しました。

景気の低迷と不透明さが長引く環境の中で、最高経営責任者(CEO)であるジャンポール・シフレは、今期のクレディ・アグリコルS.A.の業績は、経常利益の確固たる基盤に支えられたものであることを強調しました。前期に見られた傾向 – 揺るぎない事業推進力、着実な営業収益、リスク関連費用の低下 – が今期の業績結果にも同様に反映されており、そうした傾向は2010年上半期中に全ての事業部門で確認されました。

フランスのリテール・バンキング部門では、地域銀行が預金及び貸付ローン残高において力強い伸びを見せ、2010年上半期には前年同期比でそれぞれ5.5%、3.8%増加しました。LCLは、8万件以上(純増数)の新規口座を開設しました。当座預金高は15.6%増加し、住宅ローン残高はほぼ7%伸びました。

- 国際リテール・バンキング部門では、収益が1.8%上昇しました。
- 専門金融サービス部門では、消費者金融とファクタリング及びリース金融事業の強い伸びに牽引されて、

収益が12.5%増加しました。

- 資産運用、保険、プライベート・バンキングは、引き続き好調な事業によって利益を上げました。生命保険からは146億ユーロの資金流入、資産運用の株式型商品・債券型商品・絶対収益追求型商品 (absolute performance products) からは108億ユーロの資金流入 (これはマネー・マーケット商品の資金流出を上回っています)、そしてプライベート・バンキングでは37億ユーロの新規資金流入 (預かり資産純増額) という記録的な水準を達成しました。当事業部門の収益は、同一条件の下で、20.1%の増加となりました。
- 法人営業及び投資銀行部門では、銀行業務純利益が、ファイナンス事業の着実な伸び (42.1%上昇) もあって、27.3%と急激に増加しました。これにより市場関連業務の収益の21.1%の落ち込みは十分に相殺されました (但し、2009年の市場関連業務の収益は例外的に高い水準でした)。同部門の収益改善は、予想された通り非継続事業の損失がかなり削減されたことも一因となっています。

当業績は、営業総利益にも反映されており、同一条件及び一定の為替レートの下で、2010年第2四半期には前年同期比26.5%の増加、上半期は前年同期比35.4%増加しました。経常費用は、厳しく抑えられて同一条件及び一定の為替レートの下で、僅か2.2%の増加に留まりました。これが営業利益の大幅な増加に寄与しました。

リスク関連費用は、2四半期連続で減少しました。ギリシャの子会社であるエンポリキの引当金が増加したにも拘わらず、2010年の第2四半期は前年同期比13.0%の減少、2010年上半期は前年同期比7.1%の減少となりました。

全体では、2010年の第2四半期の純利益 (グループ帰属分) は、エンポリキの7億1,300万ユーロの損失 (4億1,800万ユーロの減損費用を含みます) を差し引いて3億7,900万ユーロとなり、当グループの経常利益が底堅い基盤に支えられていることが確認されました。

最後に、当グループの財務の健全性が確認されました。クレディ・アグリコルS.A.のティア1比率は2009年6月30日現在の9.2%から9.7%へと上昇しました。コア・ティア1比率は、2009年6月末時点に8.6%であったのに対し、9.1%に上昇しています。フィッチレーティングからは7月23日に、安定見通しに基づきAA-の格付けを確認されました。クレディ・アグリコルS.A.は、スタンダード&プアーズからは引き続きAA-の、ムーディーズ (長期格付け) からはAa1の格付けを得ています。

クレディ・アグリコルS.A.の十分な流動性ポジションによって、当グループは5月から6月にかけてのマーケットの流動性危機を順調に乗り切ることができました。当グループは市場の短期債務の全てをリファイナンスしました。米ドルでの資金調達に構造的に余剰となっていることと、中央銀行の公的資金援助を受けていないことで、当グループは7月末現在で1,500億ユーロの利用可能な準備金を保有しています。7月31日現在で、2010年度の250億ユーロのリファイナンス・プログラムのほぼ4分の3が完了しています。

決算スケジュール

2010年11月10日	2010年度第3四半期決算発表
2011年2月24日	2010年度第4四半期及び2010年度決算発表
2011年5月13日	2011年度第1四半期決算発表
2011年5月18日	年次総会
2011年8月25日	2011年度第2四半期及び上半期決算発表
2011年11月10日	2011年度第3四半期決算発表

クレディ・アグリコルS.A. 連結決算

(in millions of euros)	Q2-10	Q2-09	Change Q2/Q2	Change Q2/Q1	H1 2010	H1 2009	Change H1/H1
Net banking income	5,469	4,559	+20.0%	+13.4%	10,293	8,620	+19.4%
Operating expenses	(3,405)	(2,986)	+14.0%	+7.7%	(6,567)	(5,964)	+10.1%
Gross operating income	2,064	1,573	+31.2%	+24.2%	3,726	2,656	+40.3%
Cost of risk	(980)	(1,127)	(13.0%)	(8.8%)	(2,054)	(2,212)	(7.1%)
Operating income	1,084	446	x2.4	+84.4%	1,672	444	x3.8
Equity affiliates	284	43	x6.6	(33.2%)	709	364	+94.8%
Net income on other assets and change in value of goodwill	(414)	2	nm	nm	(577)	5	nm
Tax	(459)	(230)	+99.6%	+70.0%	(729)	(312)	x2.3
Net income (after tax) from discontinued activities	3	5	(40.0%)	(25.0%)	7	11	(36.4%)
Net income	498	266	+87.2%	(14.7%)	1,082	512	x2.1
Net income - Group share	379	201	+88.6%	(19.4%)	849	403	x2.1

2010年の上半期の**銀行業務純利益**は、前年同期比19.4%増の記録的最高水準の103億ユーロに達しました。これは全ての事業部門に著実な事業推進力があり、景気低迷が長引く状況下にあっても回復力が強いことを反映しています。

2010年上半期の**営業費用**は、前年同期比10.1%増加しました。同一条件及び一定の為替レートの下で、営業費用の増加は4.6%に留まり、その大部分が業務再編と他の経常外費用によるものです。2010年上半期のコスト比率は63.8%で、前年同期比5.4%減の大幅な改善が見られました。第2四半期は62.3%でした。

2010年上半期の**営業総利益**は、40.3%の目覚ましい増加を遂げ、37億ユーロに達しました。

2010年上半期の**リスク関連費用**は、21億ユーロに減少しました。これは国際リテール・バンキングを除く全ての事業部門におけるリスク関連費用の減少を反映しています。貸付ローン残高に対するリスク費用割合が1年前には103ベース・ポイントであったのに対し、2010年上半期は85ベース・ポイントとなりました。これは2009年上半期の営業総利益の83%以上に相当したのに対し、2010年上半期は同総利益の55%に相当します。2010年の上半期のリスク関連費用は、主に国際リテール・バンキング部門と専門金融サービス部門に集中していました。一方で法人営業及び投資銀行部門のリスク関連費用は大幅に減少しました。

個人顧客及び信用会社向けの貸付ローン総残高における**ノン・パフォーミング・ローン**は、2009年12月31日現在が4.1%であったのに対し、3.9%の197億ユーロでした。それらは、特定の引当金によって48.7%カバーされました。積立金も含めて、引当金残高は不良債権の67.1%に相当しました。

2010年上半期の**関連会社の収益**は、前年比でおよそ2倍の7億900万ユーロに達しました。これは地域銀行の収益が前年比20.5%増の好調な増益であったことを反映しています。

2010年上半期の**その他の資産及び営業権価額の変動からの純利益**は、5億7,700ユーロの損失となりました。これには、第1四半期にインテサ・サンパオロ (Intesa Sanpaolo) の0.8%を売却したことによる売却損(1億5,900万ユーロ)と第2四半期のエンポリキ (Emporiki) の営業権の減損費用(4億1,800万ユーロ)が含まれています。

2010年上半期の**非継続事業による純利益**は僅かに留まり、700万ユーロでした。

クレディ・アグリコルS.A.の2010年上半期の**総純利益グループ帰属分**は、前年比2倍以上の8億4,900万ユーロに達しました。

第2四半期だけを見ても、銀行業務純利益は、同一条件及び一定の為替レートの下で14.3%増加し、クレディ・アグリコルS.A.創設以来の最高水準となりました。営業費用は、同一条件及び一定為替レートの下で8.0%増加し、経常外費用の業務再編費用を除いた場合は僅か2.2%の増加に留まりました。営業総利益は、過去最高水準の20億6,400万ユーロに達しました。リスク関連費用は引き続き減少しました。ギリシャの子会社の引当金が更に3億1,500万ユーロ計上されたにも拘わらず、リスク関連費用は2010年第1四半期よりも8.8%減少し、2009年の第2四半期比では13.0%減少しました。エンポリキの営業権の減損費用の4億1,800万ユーロを差引き後で、純利益グループ帰属分は2009年第2四半期比で88.6%増の3億7,900万ユーロとなりました。

財務状況

2010年6月30日現在、CRDリスク・ウェイト資産は2009年12月31日から176億ユーロ増加し、3,440億ユーロとなりました。これには、信用リスクだけで157億ユーロの増加が含まれており、そのうち105億ユーロは、クレディ・アグリコルCIBIに帰属し、90億ユーロは為替の変動によるものです。

資金調達、上半期中は特に重要な取引はありませんでしたが、主に準備金グループ帰属分と、対ユーロ・ドルの上昇によって著しい影響を受けた、ハイブリッド証券発行による資金調達により、2.2%増加しました。

全般的には、CRDレシオは2009年12月31日の水準から30ベース・ポイント上昇して10.1%となりました。これはティア1レシオの伸びよりも若干大きく、ティア1レシオは2009年12月31日現在の9.5%から2010年6月30日現在の9.7%に上昇しました。コア・ティア1レシオは20ベース・ポイント低下して9.1%となりました。

クレディ・アグリコル・グループのCRDレシオは、2010年6月30日現在11.4%で、ティア1レシオが10.1%でした。銀行開示ベース (unfloored) ではそれぞれ12.8%、11.0%になります。

リファイナンスでは、当グループは5月から6月にかけての市場の流動性危機を順調に乗り切りました。市場の短期債務を全てリファイナンスしました。米ドルでの資金調達は構造的に資金余剰となっています。更に、中央銀行から当グループは7月末現在で1,500億ユーロの利用可能準備金を保有しており、内部流動性の管理規定（限度額、分散化、バッファ）の質の高さが確認されました。

7月31日現在で、2010年度の250億ユーロのリファイナンス・プログラムのほぼ4分の3が完了しています。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. - CRÉDIT AGRICOLE REGIONAL BANKS

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2	H1 10	Change H1/H1
Net income accounted for at equity (at 25%)	177	+6.6%	386	+28.2%
Change in share of reserves	4	nm	128	+1.6%
Income from equity affiliates	181	+11.9%	514	+20.5%
Tax*	-	nm	-	nm
Net income - Group share	181	+ 15.9%	514	+53.6%

* Tax impact of dividends received from the Regional Banks until 2009

1.2. - LCL

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2	H1 2010	Change H1/H1
Net banking income	1,006	+3.8%	1,971	+3.5%
Operating expenses	(641)	+4.2%	(1,282)	+1.5%
Gross operating income	365	+3.1%	689	+7.5%
Cost of risk	(83)	(19.0%)	(179)	(11.0%)
Operating income	282	+12.0%	510	+16.0%
Net income - Group share	188	+12.1%	339	+16.0%

2. 国際リテール・バンキング

注： 下記の2009年度の数字は、2010年第1四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコ (Credit Uruguay Banco) を非継続事業へ振替えたことによる影響額を修正表示してあります。

第2四半期には、2010年6月22日に公表された最新の業務再編及び発展プランに示されている通り、ギリシャの経済状況の悪化がエンポリキの運営に及ぼしたインパクトによって国際リテール・バンキング部門も大きな悪影響を受けました。

国際リテール・バンキング部門は、インドスエズ紅海銀行 (Banque Indosuez Mer Rouge; BIMR) をアフリカ銀行 (Bank of Africa) へ、またクレディ・ウルグアイ・バンコ (Credit Uruguay Banco) を BBVA ウルグアイ (BBVA Uruguay) へ売却することを発表したのに伴い、引き続き事業の運営の焦点を欧州及び地中海沿岸地方に照準を合わせています。

当事業部門の純利益グループ帰属分は、上半期は7億4千万ユーロの損失を、第2四半期は6億4,300万ユーロの損失を計上しました。

エンポリキを除く純利益グループ帰属分は、上半期が1億5,800万ユーロ、第2四半期が7,000万ユーロとなり、2009年第2四半期比で33.6%の減少となりました。クレディ・デュ・モロッコ (Credit Du Maroc) とクレディ・アグリコル・エジプト (Credit Agricole Egypt) が引き続き顕著な好業績を達成したため、第2四半期の銀行業務純利益は対前年比で安定していました。一方、営業費用は、抑えることができました。為替による影響 (主にポーランド) を除き、2010年の第2四半期では0.6%増と若干増加し、2010年第2四半期では前年同期比で1.1%減少しました。上半期のリクス関連費用の伸びは、14.1%に低下しました。関連会社の収益は、BES とバンキンター (Bankinter) の寄与分が減少したことにより、2009年上半期よりも低下しました。

国際リテール・バンキング部門全体では、部門の伸びは、カリパルマ (Caripama) の推進力とクレディ・アグリコル・エジプトやクレディ・デュ・モロッコのような事業体の堅調な業績に支えられて、回復に向かっています。

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2	H1 2010	Change H1/H1	Change H1/H1*
Net banking income	736	(1.1%)	1,458	+1.8%	(0.4%)
Operating expenses	(517)	+3.6%	(995)	+1.8%	+2.3%
Gross operating income	219	(10.6%)	463	+1.7%	(4.3%)
Cost of risk	(423)	+55.0%	(773)	+43.4%	+14.1%
Operating income	(204)	x7.8	(310)	x3.7	(16.8%)
Equity affiliates	25	(36.8%)	72	(16.5%)	(17.8%)
Net income on other assets and change in value of goodwill	(418)	nm	(418)	nm	nm
Pre-tax income	(597)	nm	(656)	nm	(17.0%)
Tax	(52)	(35.1%)	(96)	(11.4%)	(7.2%)
Net income from discontinued activities	3	(47.6%)	7	(44.3%)	(44.3%)
Net income- Group share	(643)	x12.7	(740)	x10.3	(20.8%)

* Excluding Emporiki

イタリアでは、カリパルマ・グループが拡大を続けています。

堅調な事業推進力に支えられて、貸付ローン残高及びバランシート上の預金残高は引き続き増加しており、前年比でそれぞれ 9.1%、7.2%の増加となりました。

第 2 四半期のカリパルマの銀行業務純利益は、3 億 6,000 万ユーロに達しました。2010 年第 2 四半期の銀行業務純利益は、第 1 四半期の急激な減少の後に回復し、7.0%増加しました。当グループの子会社群とのシナジーによって、貸付ローン残高の伸びと手数料収入の増加を達成できた結果、金利差益が一層増大しました。

費用は、引続き投資を拡大しているにも拘わらず、抑えることができました。リスク関連費用は、貸付ローン・ポートフォリオの質に影響を与えることなく、増加しました。

全体では、純利益グループ帰属分へのカリマパルマの寄与は、2010 年第 2 四半期が 4,200 万ユーロでした。同期間のイタリアにおける事業の純利益グループ帰属分は、6,100 万ユーロとなりました。

イタリアでの事業拡大の一環として、クレディ・アグリコル・S.A. は、2010 年 6 月 22 日、インテサ・サンパオロ (Intesa Sanpaolo) から買収する最終資産リストを公表しました。予想されていたとおり、買収は 2 つのグループに及び、現金による支払いが合計でおよそ 7 億 4,000 万ユーロに達する見込みです。

- インテサ・サンパオロ・グループの子会社であり、リグリア、トスカーニャ、エミリア・ロマーニャ州にある 76 の支店からなるネットワークを運営するカサ・ディ・リスパルミオ・デラ・スペツィア (Carispe)
- 主にロンバルディ、ラチウム、トスカーニャ、ヴェネチアの地域にある 96 の支店から成るグループをインテサ・サンパオロ・グループから直接買収予定

当契約が成立した時点で、クレディ・アグリコル・グループは、イタリアに902支店からなるリテール・バンキングのネットワークを保有することになります。イタリアにおける全ての事業部門のセグメント（バンキング、保険、資産運用、法人営業及び投資銀行、リース及びファクタリング、専門金融サービス）を含めると、クレディ・アグリコル・グループは、イタリアのバンキング市場では上位7銀行の1つに入ることになります。

ギリシャでは、エンポリキが、経済の悪化状況に対応するために、2009年－2013年度の業務再編及び発展プランを新たにアップデートしました。最新プランは、2010年6月22日に発表されました。その事業目標は、収益性を回復することや、成長維持のための確固たる基盤を築く一方で2012年以降利益を生むこと等、これまでと同様です。

2010年上半期には、銀行業務純利益は前年度比8.7%増の3億6,400万ユーロとなりました。一つには、逆ザヤとなっている預金残高の削減が2009年の初めに認められたことによって金利差益が改善したことが、この優れた業績につながりました。手数料収入は、明らかに回復力を示しました。その販売出来高の減少にも拘わらず、特に生命保険の商品やストラクチャード投資信託などの新商品の発売による初めての業績結果によって、過去3四半期間に渡り、手数料収入が安定しています。預金高の落ち込みは、2010年の第2四半期には前年同期比で5%減速し、一方で預金高の市場シェアは安定しました。

営業費用は、抑えられることができました。相当な業務再編費用にも拘わらず、第1四半期は前年比で僅かに0.8%の増加に留まりました。第2四半期の営業費用には、社員の退職金支払いのため等の例外的な費用が4,400万ユーロ含まれています。上半期は、人件費が12%減少しました。2009年の下半期に比べて、コスト比率は7%改善しました。

2010年第2四半期のリスク関連費用は、3億1,500万ユーロを含む5億6,900万ユーロとなりました。この相当額の費用は、6月22日に発表された最新計画に合わせて、2008年10月以前に認められたローン・ポートフォリオのための貸倒引当金の増加を反映しています。新規貸付ローンのリスク関連費用は、ほぼゼロに近くなっています。

リストラ・再生計画がアップデート以後、4億1,800万ユーロの営業権の減損費用を差し引く前のエンポリキの純利益グループ帰属分は、第1四半期が4億7,900万ユーロの損失となり、第2四半期が2億9,500万ユーロの損失となりました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2	H1 2010	Change H1/H1
Net banking income	993	+9.9%	1,976	+12.5%
Operating expenses	(434)	+6.0%	(863)	+2.7%
Gross operating income	559	+13.2%	1,113	+21.5%
Cost of risk	(335)	+7.8%	(663)	+15.1%
Operating income	224	+22.3%	450	+32.4%
Equity affiliates	3	+47.1%	6	+67.6%
Pre-tax income	227	+22.7%	456	+32.6%
Net income - Group share	127	+21.8%	253	+30.4%

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2*	H1 2010	Change H1/H1*
Net banking income	1,300	+39.5%	2,483	+46.1%
Operating expenses	(655)	+53.9%	(1,270)	+46.6%
Gross operating income	645	+27.4%	1,213	+45.6%
Cost of risk	(15)	nm	(17)	nm
Operating income	630	+25.6%	1,196	+44.3%
Equity affiliates	1	nm	2	+25.0%
Net income on other assets and change in value of goodwill	2	nm	(1)	nm
Pre-tax income	633	+26.1%	1,197	+44.2%
Net income - Group share	392	+16.3%	741	+31.3%

* 2009 figures restated for transfer of BFT Banque (BFT) to Corporate Centre

5. 法人営業及び投資銀行（CA-CIB）

クレディ・アグリコル CIB の 2010 年上半期の業績結果は、2008 年の秋に着手したリフォーカス及び発展プランの妥当性を示しています。2010 年の第 2 四半期には、事業部門は全体としてポジティブな結果を出しました：純利益グループ帰属分は、3 億 3 千万ユーロとなり、一方で継続事業の純利益グループ帰属分は、社債発行とローン・ヘッジの再評価による修正後で、4 億 100 万ユーロに達しました。

これらのポジティブな業績結果は、CDO（債務担保証券）や ABS（資産担保証券）、CLO（ローン担保証券）のポートフォリオの損失の度合いが減少してきたことやエキゾチック・エクイティ・デリバティブ関連のリスクが減少したことと相俟って、ファイナンス事業部門が優れた業績を達成したことによるものです。株式市場のボラティリティの大きさが債券関連業務にマイナスの影響を与え、マクロ経済における不安定な市場環境が長期的に続いているにも拘わらず、このような業績結果が得られました。

社債発行とローン・ヘッジの再評価による修正後で、継続事業の銀行業務純利益は 2009 年第 2 四半期よりも 16.4%減少しました。ファイナンス事業は、第 2 四半期の収益が 41.4%の大幅な伸びを見せて優れた業績を達成しましたが、債券業務の落ち込みの影響を受けた資本市場部門と投資銀行部門の同期間の 12.3%の収益の低下は相殺できませんでした。

さらに、第 2 四半期は、非継続事業が市場のボラティリティの大きさとクレジット・スプレッドの拡大によりマイナスの影響を受けました。このクレジット・スプレッドの拡大によりコリレーション事業の保証会社に対するリスク費用引当金が計上されました。

	Q2-10	Q2-09	Change Q2/Q2	H1 10	H1 2009	Change H1/H1
	Ongoing	Ongoing	Ongoing	Ongoing	Ongoing	Ongoing
(in millions of euros)	activities*	activities*	activities*	activities*	activities*	activities*
Net banking income	1,440	1,722	(16.4%)	2,964	3,497	(15.3%)
Operating expenses	(848)	(753)	+12.6%	(1,652)	(1,508)	+9.6%
Gross operating income	592	969	(38.9%)	1,312	1,989	(34.1%)
Cost of risk	(38)	(251)	(84.9%)	(185)	(552)	(66.5%)
Operating income	554	718	(22.9%)	1,127	1,437	(21.6%)
Net income - Group share	401	518	(22.6%)	820	1,032	(20.5%)

* Restated for reevaluation of debt issues and loan hedges

ファイナンス事業部門

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2	H1 2010	Change H1/H1
Net banking income	657	+41.4%	1,308	+42.1%
Operating expenses	(218)	+13.2%	(420)	+4.4%
Gross operating income	439	+61.4%	888	+71.4%
Cost of risk	(25)	(88.8%)	(156)	(68.6%)
Operating income	414	x8.3	732	x35.0
Equity affiliates	39	+22.5%	72	+3.0%
Net income on other assets	1	nm	1	nm
Pre-tax income	454	x5.5	805	x8.6
Tax	(131)	x9.6	(226)	x14.1
Net income	323	x4.7	579	x7.4

ファイナンス事業は、着実な業績の伸びにより、2010 年の上半期は優れた結果を出しました。銀行業務純利益は、前年比 42.1%増加し、13 億 800 万ユーロとなりました。純利益は、同期間で 7.4 倍と大幅に増加し、5 億 7,900 万ユーロに達しました。

ストラクチャード・ファイナンスの収益は、前年比 28%増加しました。これはストラクチャード・ファイナンスの全てのセグメントの業績が好調であり、特にプロジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、航空機ファイナンスが好調であることによるものです。クレディ・アグリコル CIB は EMEA 地域でのリーダー的立場を維持し、プロジェクト・ファイナンスのアメリカ地域では第 1 位に上昇し、世界的な航空機ファイナンスにおけるランクでは再び第 1 位となりました。²

同様に、商業銀行部門は、シンジケーションで主導的立場を固め、2009 年と比べて同ランキングは顕著に改善しました。クレディ・アグリコル CIB は、フランスと EMEA（欧州、中東、アフリカ）地域では第 3 位から第 1 位に、西ヨーロッパでは第 4 位から第 1 位に上昇しました。商業銀行の収益は、プライシングが極めて競争の激しい環境の中で、2009 年上半期と同様の水準を維持しました。³

最後に、ローン・ヘッジのアクティブな運用により、これらのボラティリティが著しく縮小されました。過去数四半期間に渡って、ボラティリティがローンポートフォリオに与える影響は重要なものではありません。

新規の大規模なノン・パフォーミング・ローンはなく、リクス関連費用も今期は明らかに減少しました（66.5%減）。リスク関連費用は、顧客のクレジット残高の 8%となり、2010 年 3 月 31 日現在と比べ 37%減少しました。引当金は、2010 年 6 月 30 日現在で 15 億ユーロとなっています。

資本市場部門及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2	H1 2010	Change H1/H1
Net banking income	917	(12.3%)	1,729	(21.1%)
Operating expenses	(630)	+12.3%	(1,232)	+ 11.4%
Gross operating income	287	(40.7%)	497	(54.2%)
Cost of risk	(13)	(57.6%)	(29)	(48.4%)
Operating income	274	(39.7%)	468	(54.5%)
Equity affiliates	(1)	nm	-	nm
Pre-tax income	273	(39.7%)	468	(54.3%)
Tax	(90)	(32.9%)	(149)	(50.9%)
Net income	183	(42.5%)	319	(55.8%)

ボラティリティが高いマーケット環境と、欧州のソブリン債をめぐる不透明な見通しの背景においても、2010 年第 1 四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益は前年同期比で 32%の減少に留まりました。2009 年上半期の同収益が通常よりも著しく高かったことも考慮すべき事項です。

債券関連のセグメントは、金利デリバティブと債券ビジネスの寄与の鈍化により、大きな打撃を受けました。その一方で、為替業務は優れた業績を達成しました。いずれにせよ、顧客主導の収益は回復力が速いことが明確に示され、2009 年の上半期に匹敵する水準となりました。

² 出典：トムソン・ファイナンシャル

³ 出典：トムソン・ファイナンシャル

株式部門の収益は、ブローカレッジ業務が比較的回復したことと、プライマリー・マーケットの株式公募引受けに絡む業務が今期は好調であったことにより、前年同期比で増加しました。クレディ・アグリコル CIB は、2009 年度は転換社債でフランス第 2 位の引受幹事会社であったのに対し、2010 年の上半期には第 1 位のランキングとなりました。⁴

2010 年第 2 四半期の極めて動きの激しいマーケット環境下でも、継続事業の VaR（最大損失予想額）は限度額の 3,500 万ユーロを常時大きく下回りました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q2-10	Change Q2/Q2	H1 2010	Change H1/H1
Net banking income	(121)	(76.7%)	(303)	(68.5%)
Operating expenses	(27)	(12.9%)	(52)	(13.3%)
Gross operating income	(148)	(73.1%)	(355)	(65.3%)
Cost of risk	(76)	(56.3%)	(216)	(30.3%)
Pre-tax income	(224)	(69.0%)	(571)	(57.1%)
Tax	61	(75.2%)	181	(58.0%)
Net income	(163)	(65.8%)	(390)	nm

2010 年上半期のポートフォリオに対し、引き続きアクティブな運用を行ったことによって、クレディ・アグリコル CIB は、同期間中に非継続事業の損失を 3 億 9 千万ユーロまで大幅に削減しました。エキゾチック・エクイティ・デリバティブの寄与は、2010 年上半期の銀行業務純利益で 2,800 万ユーロと僅かにプラスとなっています。

CD0、ABS 及び CL0 のポートフォリオでは、最終デフォルト回収率は、2010 年上半期に僅かに悪化しました。2010 年上半期の CD0、ABS 及び CL0 の損失は、前年同期の 7 億 1 千万ユーロに対し、3 億 9,700 万ユーロとなりました。さらに、クレディ・アグリコル CIB は引き続き機会がある毎に（リストラクチャリング、マクロヘッジの削減等）、残存するエクスポージャーのアクティブな管理を行いました。

最後に、コリレーション事業では、2010 年第 2 四半期に 1 億 3,500 万ユーロの例外的な損失を計上しました。これは、事業会社の CD0 のクレジット・スプレッドが拡大したことにより、保証会社に対する保証料支払いの影響が出たことが原因でした。しかし、この損失は、2009 年に導入された安定化プランの妥当性を揺るがすものではありません。

2008 年 10 月行われた金融資産のローン及び受取債権への再分類は、6 千万ユーロの税引前損失を相殺する結果となりました。

全体的に見て、非継続事業の損失は大幅に減少し、2010 年の第 2 四半期には前年同期比で 65.8%減の 1 億 6,300 万ユーロに留まりました。

⁴ 出典：トムソン・ファイナンシャル

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q2-2010	Change Q2/Q2*	H1 2010	Change H1/H1*
Net banking income	(18)	nm	(329)	(4.4%)
Operating expenses	(284)	+16.7%	(453)	+ 5.6%
Gross operating income	(302)	+28.8%	(782)	+1.2%
Cost of risk	(9)	+5.6%	(21)	(27.2%)
Operating income	(312)	+28.0%	(803)	+0.2%
Equity affiliates	35	nm	43	nm
Net income on other assets and change in value of goodwill -		nm	(159)	nm
Pre-tax income	(276)	(36.5%)	(919)	(10.0%)
Net income - Group share	(196)	(54.1%)	(744)	(7.9%)

* 2009 figures restated for transfer of BFT Banque (BFT) to Corporate centre

クレディ・アグリコル連結決算

2010年前半6ヶ月間のクレディ・アグリコル・グループの銀行業務純利益は、前年同期比14.6%増の173億ユーロとなりました。営業費用の7.6%の小幅な増加を差し引いた営業総利益は、26.8%増加して69億ユーロに達しました。これは地域銀行、資産運用、保険、及びプライベート・バンキングの好調な業績を反映しています。

リスク関連費用は、フランスのリテール・バンキングとファイナンス事業のリスク関連費用の減少により、7.3%低下しました。この減少分は、ギリシャの子会社であるエンポリキの引当金増加分と専門金融サービス部門の引当金増加分(エンポリキほどの増加ではありませんでしたが)を相殺するのに十分でした。

その他資産と営業権時価額の変動に関連する純利益には、主にエンポリキの営業権減損費用(4億4,500万ユーロ)とインテサ・サンパオロの同0.8%持ち分の売却損が含まれています。全体的には、純利益グループ帰属分は、2009年上半期比69.4%増の18億4,600万ユーロとなりました。

€m	Q2-10	□Q2/Q2	H1-10	□H1/H1
Net banking income	8,962	+13.4%	17,297	+14.6%
Operating expenses	(5,350)	+9.9%	(10,380)	+7.6%
Gross operating income	3,612	+19.1%	6,917	+26.8%
Cost of risk	1,408	(13.2%)	(2,949)	(7.3%)
Operating income	2,204	+56.2%	3,968	(74.7%)
Equity affiliates	99	nm	188	nm
Net income on other assets	(442)	nm	(604)	nm
Pre-tax income	1,861	+47.0%	3,552	+63.0%
Tax	(848)	+56.5%	(1,481)	+49.6%
Net Income	1,016	+39.4%	2,078	+73.2%
Net income – Group share	897	+35.3%	1,846	+69.4%

クレディ・アグリコルSAの2010年第2四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/en/Finance-and-Shareholders の“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定めるL. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation の規定に従って、クレディ・アグリコルSAにより公開されています。

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	+33 (0) 1 43 23 26 78		
Nathalie Auzenat	+33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heures	+33 (0) 1 43 23 06 38
Sébastien Chavane	+33 (0) 1 57 72 23 46	Marie-Agnès Huguenin	+33 (0) 1 43 23 15 99

Disclaimer

Review procedures have been conducted by the statutory auditors. The statutory auditors' review report on the 2010 interim financial statements is being issued.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts under the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union.